

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970500249		
法人名	有限会社 三愛商事		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	土佐市高岡町1684		
自己評価作成日	平成27年3月30日	評価結果 市町村受理日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでは、入居者が住み慣れた地域の中で、ゆったりと安心して生活できるよう、常にいたわりと優しさを持って、日々の支援に取り組んでいます。  
また、入居者と職員は和気あいあい楽しく暮らし、町内会にも加入し、地域の方との交流を一層深め、家族の協力を得ながら、共に支え合っていけるようなホームを目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成27年5月14日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は古くからの民家が立ち並ぶ閑静な住宅地に位置し、市役所、病院、量販店にも近く、利便性の良い場所に立地している。開設後12年目になり、すでに地域における暮らしが確立し、日常的に地域住民と交流している。豪雨時には、近所の一人暮らしの住民が安心を求めて事業所に避難したり、町内会長が安否確認に来るなど、事業所は地域住民に信頼され、利用者は地域の一員として暮らしている。  
管理者は利用者と職員とのコミュニケーションを大切にし、職員とチームワークを良くとり、「利用者が安心して暮らせる」という理念を大切に利用者個々に対してきめの細かいケアを提供している。利用者には生活のリズムが出来ていて、筋力低下防止のための毎日のリハビリ体操、午後の休息时间、趣味の活動時間など、メリハリのある、ゆったりとした生活を送っている。また、家族とのコミュニケーションも良く、家族の積極的な協力のもとに、利用者本位の暮らしを築いている事業所である。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名：

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会や毎日のミーティングでケアについて話し合い、共に地域密着型サービスの意義(理念)に基づき、意見交換しながら実践に繋げている。	毎日、朝夕に行うミーティング時や職員会において、「住み慣れた地域でゆったり安心して暮らせる」という、理念に基づいたケアが実践できているか常に振り返り、話し合いながらケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の一斉清掃や自主防災訓練への参加などを通し地域の方と挨拶や会話を交わし、時にお花や苗などを頂くことがある。	町内会に加入し、地域の一斉清掃への参加などを通じて、町内の一員として日常的に地域住民と交流している。貯水タンクの漏水を近隣住民が気づいて報せてくれたり、花や苗のおすそ分けや、庭での栽培を気にかけてくれるなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事(慰問等)や運営推進会議などを通して地域の方との交流する機会を持ち、利用者と触れ合うことで、認知症の理解に繋げ、介護実習の受け入れの用意もしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回議題を決め、その都度それに沿った話し合いや意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	前回の評価結果を基に、民生委員の参加を得るとともに、家族へ議事録を送付している。会議は事業所からの報告と併せ、その時点での問題点を踏まえて議題をきめ、参加者と活発に意見交換を行っている。議事録も分かりやすくまとめ、サービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村主催の講習会への参加や、都度解らないことがあれば相談し、助言を受けたりしながら、協力関係を築けるよう努めている。	市担当者には介護保険の解釈や疑問点など気軽に相談している。また、困難事例なども相談に乗ってもらい、互いに忌憚のない意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修などを通して身体拘束をしないケアについて周知しており、入居者が自由に過ごして頂けるようにできる限りの見守りを行い、拘束をしないケアの取り組みをしている。	職員は研修や勉強会を通じて、何が身体拘束にあたるかを理解している。また、薬物使用等の拘束によって生じる弊害についても理解しており、家族とリスクについての話し合いも行い、拘束のないケアを実践している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員共に、高齢者虐待関連法は高齢者虐待防止の研修などに参加し、また日々の暮らしの中で入居者一人ひとりの身体状況を観察し、変化があれば報告し意見交換などを行っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会主催の研修があれば参加し、また職員会などでも発表の場を設け、皆が理解を深め、共に学んでいる。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に内容を説明し、改定の際もその都度、家族に説明し疑問や不安な点があれば、きちんとお答えし、理解と納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や個別の担当者会、または家族会を通し意見交換を行い、できるだけ家族の意向を汲み取るようにしている。	前回の評価を基に、家族同士での話し合いの場を設定し記録も作成している。また、今年度は家族が決めた議題を基に、家族だけの会と、事業所を交えた会を開催予定である。家族の意見・要望については職員間で話し合い、対応と改善に努め、その結果を家族に伝える仕組みを作っている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営や業務に関しては、日々の申し送り時や職員会などで意見や要望などを聞く機会を設け、話し合いを行い運営や業務に反映している。	数カ月に1回の割合で、職員会に法人代表が出席しており、職員の意見や提案を聞く機会となっている。また、職員と管理者とのコミュニケーションは良く取れ、職員の意見や気づきを運営に反映している。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況については毎月の勤務表を提出し、また都度報告を行っている。また有給、産休、育児休暇、傷病手当の手続きなど取得可能な環境を整備している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が外部研修を受ける機会を設け、研修報告書の提出(発表)などを通して、共に学び、ここの向上に取り組んでいる。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームと交換研修など行う機会を設けたり、管理者同士の意見交換なども行いながらサービス向上に向けての取り組みを行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り、本人の要望や不安(困っている)なことに耳を傾け(時に家族の協力を得ながら)、本人の安心を確保するための関係を作っている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者会などを通し、家族が困っていることや不安や要望について耳を傾けながら、意見交換を行い、関係を構築すべく努力している。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の際は必ず、家族の意向を聞き、意見交換を行い、必要なサービスを見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共に笑い、共に助け合いながら、愛情を持って家族同様に接し、共に暮らしていく者同士の関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族との関係性を大切にしながら、家族の協力のもとで共に支え合える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容室、なじみの飲食店など家族の協力を得ながらその関係が途切れないよう、支援している。	親戚や友人の面会があるほか、家族と一緒に馴染みの美容室に行ったり、馴染みの飲食店で外食などを行っている。また、ドライブに出かけた時、自宅近くに寄ったりして、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の人間関係を把握し、トラブルが無いよう、時に仲裁に入ったり、利用者が孤立しないよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も年賀状やお見舞いなど、必要に応じてその方の現況を把握するよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で、利用者の言動や行動からその思いを汲み取り、意思疎通が困難な場合でも表情や仕草、家族からの情報などを得て、職員同士話し合いながら本人本位に支援を行えるよう努めている。	生活歴や本人の希望などで、思いや意向を把握し、俳句や習字、折り紙細工など、利用者がやりたい事を見つけて支援している。帰宅願望が強い利用者が、折り紙をする事で集中力が付き、毎日の献立をボードに書く役割を持つことで、生き生きと生活するようになった事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントやその後の聞き取りなどを参考に、サービス利用の経過等の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状況やその有する力等については日常生活の中で観察し、ミーティング等で職員同士で意見交換をし情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の担当職員と他の職員と話し合い、アセスメント作成、担当者会にて、家族の報告及び家族からの要望等を聞き、その方に必要なケアを計画作成している。	各利用者の担当職員を決め、3カ月に1回の担当者会には、ほとんどの家族が出席し、家族からの意見、要望や担当職員の気づきなどを踏まえて、介護計画を作成している。介護計画は個別のプランになっており、唄や俳句、習字など利用者の生きがいにつながる活動支援も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別生活記録を毎日記入し、モニタリングした申し送りノート、及びミーティング等で情報を共有しながら、ケアの統一図り、実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の希望を聞き、可能な範囲で既存のサービス以外に通院や受診、手続きの代行など柔軟に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの慰問などを設けたり、他の施設のイベントに参加、また、おなばれなどが前を通るのを外に出てみたりして、本人の心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にし、納得が得られるかかりつけ医と治療が受けられるよう支援している。	本人、家族は希望する医療機関を受診している。受診には家族の協力があり、基本的に家族が付き添っている。しかし、緊急時や家族の状況によって、職員が同行している。家族による受診時は、利用者の様子を記入した受診ノートを持参し、受診結果は個人記録に保管して情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護及び協力病院等の看護師に現況や、変わったことがあればその都度、報告・相談しながら適切な受診ケアが受けれるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状況等に情報交換(ホーム、病院、医師間等)しながら、安心して治療が受けれるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化等の対応については、常日頃、家族に利用者の現況や、今後起こり得るリスク等も含め説明し、都度話し合いを持つようにしている。また、毎月状況を書いた手紙を家族に送っている。	重度化に対する指針を入居時に説明し、契約時に同意を得ている。担当学会では利用者の現在の身体状況を話し合い、利用者、家族の意向を把握するようにしている。看取り等の希望があれば事業所で対応可能なケアを説明し、医療関係者、家族、職員と共に話し合うことにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	簡単なマニュアル作成とともに、ミーティングや職員会などで、初期対応など実践に活かせるような話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームでの防火訓練や地域での自主防災訓練に参加させて頂き、地域との協力体制が得られるような関係を作っていくようにしている。	毎年、地区の一斉清掃後に20人ほどの住民と一緒に防災訓練をしている。また、事業所では抜き打ちの防火訓練を実施している。非常時に備え、家族だけの連絡網を作成する計画もある。また、職員手作りの防災ずきんのほか、3日分以上の食糧と備品を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助側の声のトーンや傷つけるような言動に対しては、その都度お互い注意しあいながら、ケアの実施を行っている。	利用者の人格や尊厳を大切にし、職員の言動や声のトーンが利用者の尊厳を損ねないよう特に注意を払っている。もし気になる言動がみられたら、その場で互いに確認し注意しあっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に関しては、可能な限り自主決定ができるよう、家族にも相談しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に職員側の都合を優先せず、利用者側にたったケアを目指し、そのことについてもミーティング等で話し、その方向でケアができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力を得ながら、清潔に気持ちよく過ごして頂けるよう、身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては個人(利用者)の意見を聞きながら、誕生日会に提供したり、皆が好みそうな献立を作成し提供している。食事前の準備(台拭き、下ごしらえ)は利用者の自主性に任せ、皆が楽しく食事できるような取り組みを行っている。	協力病院の栄養士が作成した献立表を参考に、利用者に馴染みのある、旬の食材を使用した献立を考え、食材も地域の商店を利用して仕入れている。刻みや軟飯など利用者が食べやすい形態で提供し、食事が楽しみになるよう、自分で食べる事を大切に支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分チェック表を作成し、個々の状態を見ながら、その方に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの見守りや声掛け介助を行い、必要な方に関しては歯科往診にて口腔ケアをして頂き清潔を心がけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	アセスメント、介護計画、情報交換の中から、個々の排泄パターンを把握し、できるだけオムツを使用しない方向で排泄の自立に向けた支援を行うようにしている。	チェック表で個々の排泄パターンを把握し、必要な利用者には時間誘導を行っている。また、全介助の利用者には、介助方法を職員間で統一し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分に注意しながら、適度な運動をして頂くことで便秘回避に繋げ、医師にも相談しながら、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に2日に一度に設定はしているが、本人の希望や、その時々状況に合わせて、臨機応変に対応できるように支援している。	利用者の希望や体調に留意して、入浴を支援しており、利用者が入浴を拒むことがあっても、声掛けや時間ずらしなどチームプレーで対応し、少なくとも2日に1回の入浴支援につなげている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その都度、状況に合わせ、自由に休息し、昼食後もお昼寝タイムを設け、安心して眠れるよう支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については状況を医師に報告し、その指示のもと薬セット時、また個人個人が薬情を見て、副作用、用法を理解するよう努めている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々が喜びを見い出せる日々が過ごせるよう、その方の力を活かした、役割や嗜好を見つけ、気分転換を図っている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族にも協力を得ながら、その方の希望に添って、できる範囲で戸外に出かけられるように支援している。	近所への散歩は利用者の高齢化に伴い減少傾向にあるが、自分で歩くことを大切に、室内での歩行訓練や庭での外気浴、季節の花見や外食、ドライブ、買い物への同行など、外出先で歩く機会を作り、筋力の低下防止に努めている。車いす利用者が、手を引いての歩行が可能になった事例もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b>  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方個人の希望にてお金を所持し、使用に関しては職員が買い物を代行し、お出かけの際には家族と買い物に行かれる方もいる。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b>  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の希望により家族や大切な人に電話をしたり、手紙でのやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b>  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激がないよう、生活感や季節感を取り入れて居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は貼り絵で作った天の川の七夕飾り、折り紙で作った紫陽花や傘など、季節を表す手作りの飾りと、利用者の習字などで温かい雰囲気を与えている。ソファやテーブルなども利用者が使いやすいよう配置され、居心地の良いホールになっている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b>  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、自由に利用者が過ごせるようにしている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b>  居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室は家族や本人と相談しながら、使い慣れたものや好みを活かしたものとなっており、居心地よく過ごして頂けるようにしている。	居室には使い慣れた家具が置かれ、曾孫などの家族の写真、習字や俳句を飾った部屋、利用者が作った折り紙細工を壁一面に飾っている部屋など、利用者それぞれが安心して暮らせる居室づくりを行っている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b>  建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、時々見守りをしながら安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		

ユニット名：

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				